

国語科 実態調査の実施にあたって

I 実施方法

1. それぞれの児童生徒の段階を、「知識及び技能」「思考力，判断力，表現力等」の内容に沿って観点別に把握していく。「知識及び技能」は領域区分はなく，小学部段階，中学部段階，高等部段階ごとに全て同じ内容となっている。「思考力，判断力，表現力等」は「A聞くこと・話すこと」「B書くこと」「C読むこと」で構成されている。
2. それぞれの段階の指導内容の調査項目に従い，達成状況等に応じて○，△を記入する。詳細な見取りが必要な項目もあるため，記述欄を導入する。
3. △の部分や空欄の部分は，今後の授業づくりや指導計画を作成する際に，指導事項の内容や要素を入れられるよう検討する。

II 留意点

国語科実態調査表を使用するにあたり，以下の点に留意する。

- 「知識・技能」の調査項目は，「A聞くこと・話すこと」「B書くこと」「C読むこと」に関連したものを重視し，重視しないものは「／」表記としている。
- 「知識・技能」は習得状況として判別する。文末表現は「～できる。」とする。
- 「思考力，判断力，表現力等」は子どもの姿として判断しているため，文末表現は「～している。」とする。
- 学習指導要領解説等から調査項目を作成している。
- 活動例については，実態調査の際に有効であった活動や実際の単元名を記入し，更新していく。

※今後，より具体的な子どもの姿として表すことができるように，調査項目を改訂していく。

聞くこと・話すこと

段階	段階の目標	指導事項	知識及び技能	調査項目	判定
小1 段階	日常生活に必要な身近な言葉が分り使うようにするとともに、いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようにする。	ア	(ア) 身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じること。	身近な人からの呼びかけに反応することができる。	
			(イ) 言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりすること。	教師や友だちと一緒に声を出したり手を叩いたりすることができる。 言葉と事物とを結びつけることができる。	
				わらべ歌や言葉遊び等を楽しむことができる。	
		(ア)	昔話などについて、読み聞かせを聞くなどして親しむこと。	特徴的な言い回しやフレーズを楽しんだり、動作化したりできる。	
		イ	(イ) 遊びを通して、言葉のもつ楽しさに触れること。	擬態語を聞いて動作化したり、音まね、声まねをしたりすることができる。	
			(ウ) ア いろいろな筆記具に触れ、書くことを知ること。	身近な筆記具を手にとって、書くことができる。	
				着席して、机上の紙に筆記具で書くことができる。	
			(ウ) イ 筆記具の持ち方や、正しい姿勢で書くことを知ること。	正しい持ち方で鉛筆等を保持したり、線を書いていたりすることができる。	
			(エ) 読み聞かせに注目し、いろいろな絵本などに興味をもつこと。	挿絵に注目したり、出てくる言葉や擬音語を声に出したりすることができる。	

段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定		
小2段階	日常生活に必要な身近な言葉を身に付けるとともに、いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようにする。	ア	(ア) 身近な人の話し掛けや会話などの話し言葉に慣れ、言葉が、気持ちや要求を表していることを感じること。	テレビやラジオを含め、人が話している言葉に注意を向けることができる。		
			気持ちや要求を言葉で伝えたり、挨拶をしあったりできる。			
			(イ)	日常生活でよく使われている平仮名を読むこと。	平仮名を一文ずつ読むことができる。	
				平仮名で書かれた単語を語のまとまりで読むことができる。		
		イ	(イ) 身近な人との会話を通して、物の名前や動作など、いろいろな言葉の種類に触れること。	物の名前や動作を表す言葉(単語動詞等)を話すことができる。		
			(イ) 昔話や童謡の歌詞などの読み聞かせを聞いたり、言葉などを模倣したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。	物語の冒頭や一部を真似ることができる。		
			(イ) 遊びややり取りを通して、言葉による表現に親しむこと。	わらべ歌や手遊び歌等を動きと言葉で楽しむことができる。		
			(イ) いろいろな筆記具を用いて、書くことに親しむこと。	黒板や画用紙などに、チョークや鉛筆、フェルトペン、クレヨンなどの筆記具で線を楽しむことができる。		
		イ	(イ) 正しい姿勢など、書写の基本を身に付けること。	筆記具を正しく持って、平仮名の写し書きやなぞり書きができる。		
				正しい姿勢で、平仮名の写し書きやなぞり書きができる。		
				(イ) 読み聞かせに親しんだり、文字を拾い読みしたりして、いろいろな絵本や図鑑などに興味をもつこと。	図鑑や絵本を見ながら拾い読みをしたり、知っている言葉を読んだりできる。	

段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定		
小3段階	日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に触れ、親しむことができるようにする。	ア	(ア) 身近な人との会話や読み聞かせを通して、言葉には物事の内容を表す働きがあることに気付くこと。	言葉による意味の違いに気付くことができる。		
			(イ) 姿勢や口形に気を付けて話すこと。	よい姿勢で、口を大きく開けてはっきりと話すことができる。		
			(ウ)	日常生活でよく使う促音、長音などが含まれた語句、平仮名、片仮名、漢字の正しい読み方を知ること。	長音や促音等を含んだ言葉や短い文を読むことができる。	
		カタカナを一字ずつないしはカタカナの単語を読むことができる。				
		身近な漢字や簡単な漢字を読むことができる。				
		イ	(エ)	言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。	単語を意味のまとまりで区切って読むことができる。	
					食べ物、色など、ジャンルごとに単語を分けることができる。	
			(オ)	文の中における主語と述語との関係や助詞の使い方により、意味が変わることを知ること。	主語と述語を用いて話したり、短い文を書いたりすることができる。	
		(カ)	正しい姿勢で音読すること。	助詞の違いによる意味の違いに気付くことができる。		
		ウ	(ア)	物事の始めと終わりなど、情報と情報との関係について理解すること。	明瞭な発音や正しい語のまとまりやリズムで、文章を音読することができる。	
					物事の順序や手順を捉えることができる。	
			(イ)	図書を用いた調べ方を理解し使うこと。	目的の本やページを見付けることができる。	
		エ	(ア)	昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き、言葉の響きやリズムに親しむこと。	昔話や神話などの独特な表現をまねたり音読したりすることができる。	
					(イ)	出来事や経験したことを伝え合う体験を通して、いろいろな語句や文の表現に触れること。
			(ウ)	目的に合った筆記具を選び、書くこと。	マスの大きさや行の幅に応じて文字の大きさや文量を変えて書くことができる。	
					見やすさなどを踏まえて筆記具を選んだり、記号や図を用いたりできる。	
			(ウイ)	姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、平仮名や片仮名の文字の形に注意しながら丁寧に書くこと。	正しい筆記具の持ち方で、字形を整えて丁寧に書くことができる。	
(エ)	読み聞かせなどに親しみ、いろいろな絵本や図鑑があることを知ること。	様々な絵本や図鑑を自ら手に取って読むことができる。				

段階の目標	指導事項	思考力、判断力、表現力等	調査項目	判定
言葉	ア	教師の話や読み聞かせに応じ、音声を模倣したり、表情や身振りを、簡単な話し言葉などで表現したりすること。	読み聞かせの際、場面を注視する。指をさす、特徴的なフレーズを声に出す、身振りで表すなどしている。	
	イ	身近な人からの話し掛けに注目したり、応じて答えたりすること。	名前を呼ばれると、振り向く、手を挙げる、返事をする、近くにくるなどしている。	
	ウ	伝えたいことを思い浮かべ、身振りや音声などで表すこと。	支援者の手を引いたり、クレーンをしたりして何かを要求している。	
			絵本や写真、具体物などを持ってきて手渡している。	
			対象を指さしながら、喃語を発したり、何か関係する音声や言葉を発したりしている。	
			教師や支援者の言葉を真似たり繰り返したりしている。	

段階の目標	指導事項	調査項目	判定
言葉が表す事柄を想起したり受け止めたりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合い、自分の思いをもつことができるようになる。	ア	話を聞いて、思い浮かべたことを声に出している。	
		身近な人の話に慣れ、簡単な事柄と語句などを結び付けたり、語句などから事柄を思い浮かべたりすること。	簡単な問いかけに答えている。
	イ	「ちょうだい」「座ってください」などの言葉がけに応じて行動している。	
		簡単な指示や説明を聞き、その指示等に応じた行動をすること。	「かばんをしまう」「トイレに行く」など、日常的な指示について理解して行動している。
	ウ	映像や写真を提示すると、指さしをしたり、関連する言葉や、関連する内容について話したりしている。	
		体験したことなどについて、伝えたいことを考えること。	
	エ	手遊び歌やごっこ遊びの中で、台詞や言い回しを繰り返したり真似たりしている。	
		挨拶をしたり、簡単な台詞などを表現したりすること。	あいさつにあいさつを返している。

段階の目標	指導事項	調査項目	判定	
出来事の順序を思い出す力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身に付け、思い付いたり考えたりすることができるようにする。	ア	絵本の読み聞かせなどを通して、出来事など話の大体を聞き取ること。 読み聞かせを聞いて、絵本の内容について、登場人物や場所、具体的な出来事について話している。		
	イ	経験したことを思い浮かべ、伝えたいことを考えること。 絵や写真、映像などから、そのときの様子などについて話している。		
	ウ	見聞きしたことなどのあらましや自分の気持ちなどについて思い付いたり、考えたりすること。 出来事とその時の気持ちについて話している。 話す順番に気を付けて話している。	昨日や今日あった出来事について話している。	
	エ	挨拶や電話の受け答えなど、決まった言い方を使うこと。 自分から挨拶をしたり、挨拶に適切に応じたりしている。 電話で名前や要件を伝えている。		
	オ	相手に伝わるよう、発音や声の大きさに気を付けること。 相手との距離や状況に応じた声の大きさを話している。		
	カ	相手の話に関心をもち、自分の思いや考えを相手に伝えたり、相手の思いや考えを受け止めたりすること。 友だちや教師が話したことについて、気付いたことや感想など、思いついたことを話している。		

活動例
・呼名に応じる ・欲しい物や行きたい場所、援助など ・の簡単な要求 ・朝の会・帰りの会 ・読み聞かせ(通年) ・「選んで伝えよう」 ・「聞こう　話そう」 ・挨拶・返事 ・手遊び歌
・自己紹介・呼名への返事 ・欲しい物や行きたい場所、援助などの要求 ・朝の会・帰りの会の司会 ・読み聞かせ(通年) ・「話して伝えよう」 ・挨拶・返事 ・手遊び歌
・自己紹介・歓迎の言葉の発表 ・欲しい物や行きたい場所、援助などへの丁寧な要求 ・朝の会・帰りの会の司会 ・読み聞かせ(通年) ・「絵本を読んで伝えよう」 ・楽しかった出来事についての発表

聞くこと・話すこと

段階	段階の目標	指導事項	知識及び技能	調査項目	判定
中１段階	日常生活や社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しむことができるようにする。	ア	(ア)身近な大人や友達とのやり取りを通して、言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。	身近な人からの話しかけや指示内容を捉えることができる。	
				姿勢や口形に気を付けて話すことができる。	
			(イ)発音や声の大きさに気を付けて話すこと。	相手との距離に応じた声の大きさで話すことができる。	
			(ウ)長音、拗(よう)音、促音、撥(はつ)音、助詞の正しい読み方や書き方を知ること。	文の中にある、長音や拗よう音、促音、撥音を正しく読むことができる。	
				「は」、「へ」、「を」などの助詞を正しく使うことができる。	
			(エ)言葉には、意味による語句のまとまりがあることを理解するとともに、話し方や書き方によって意味が異なる語句があることに気付くこと。	同音異義語や対義語などについてその違いに気付くことができる。	
			(オ)主語と述語との関係や接続する語句の役割を理解すること。	主語と述語を正しく用いて話したり文を書いたりできる。	
				接続語を適切に用いることができる。	
		ウ	(カ)普通の言葉との違いに気を付けて、丁寧な言葉を使うこと。	相手や場面に応じて、敬語や丁寧語を用いることができる。	
			(キ)語のまとまりに気を付けて音読すること。	言葉の意味を捉えて、相手に伝わるように言葉や文を読むことができる。	
			イ	(ア)事柄の順序など、情報と情報との関係について理解すること。	人の話を聞いたり、文を読んだりしたことを正しく捉えることができる。
				出来事について、いつ、誰が、なにをしたを時系列に沿って整理することができる。	
			(ア)自然や季節の言葉を取り入れた俳句などを聞いたり作ったりして、言葉の響きやリズムに親しむこと。	一定の音やリズムに沿って俳句や短歌を読んだり作ったりすることができる。	
				季節や情景を理解し、俳句などに取り入れることができる。	
			(イ)挨拶状などに書かれた語句や文を読んだり書いたりし、季節に応じた表現があることを知ること。	時候のあいさつや、定型的な表現を知り、用いることができる。	
			(ウ)ア姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くこと。	字形を整えて、身の回りの漢字を書くことができる。	
			(ウ)イ点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して文字を書くこと。	点画の方向や長短に気を付けて漢字や平仮名を書くことができる。	
			(エ)読書に親しみ、簡単な物語や、自然や季節などの美しさを表した詩や紀行文などがあることを知ること。	様々な形態の文章があることに気付くことができる。	
段階	段階の目標	指導事項		調査項目	判定
中２段階	日常生活や社会生活、職業生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しむことができるようにする。	ア	(ア)日常生活の中での周りの人とのやり取りを通して、言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。	気持ちや感情を表す言葉を用いて気持ちを表現することができる。	
				(イ)発声や発音に気を付けたり、声の大きさを調節したりして話すこと。	聞き手に聞こえる明瞭さや声量で話すことができる。
			(ウ)長音、拗(よう)音、促音、撥(はつ)音などの表記や助詞の使い方を理解し、文や文章の中で使うこと。	文の中で長音や促音、助詞を用いることができる。	
			(エ)理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、使える範囲を広げること。	様子や行動、気持ちや性格を表す言葉を会話や文の中で使うことができる。	
			(オ)修飾と被修飾との関係、指示する語句の役割について理解すること。	修飾語を用いたり、修飾・被修飾の関係を捉えたりできる。	
			(カ)敬体と常体があることを理解し、その違いに注意しながら書くこと。	敬体と常体を用いたり、使い分けたりできる。	
		ウ	(キ)内容の大体を意識しながら音読すること。	文章全体の大体を理解することができる。	
				登場人物の気持ちや行動の変化を捉えることができる。	
				文章を読んで、いつ、どこで、だれが、なにをしたかを捉えることができる。	
			(ア)易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。	文語調の短歌や俳句を読むことができる。	
		(イ)生活に身近なことわざなどを知り、使うことにより様々な表現に親しむこと。	(ウ)ア点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くこと。	正しい点画を捉え、字形を整えて書くことができる。	
				正しい筆順で平仮名や片仮名を書くことができる。	
			(ウ)イ漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。	「へん」と「つくり」の大小や文字の大きさなど、文字のバランスを整えて書くことができる。	
				文字と文字の間隔や行間がおおよそ同じになるように文字を書くことができる。	
		(エ)幅広く読書に親しみ、本にはいろいろな種類があることを知ること。		いろいろな種類の本を手にとって読んだり、情報を得たりできる。	
				学校図書館で目的の本を探すことができる。	

思考力、判断力、表現力等					活動例
段階の目標	指導事項	調査項目	判定		
順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。	ア	家族や教師、支援者や友だちが話したことについて、メモをとっている。			・係の仕事の終わりの報告 ・日記を書く ・日記の紹介 ・スピーチ ・新聞づくり ・電話への応答 ・話し合い ・「〇〇について話そう」 ・個別学習
		身近な人の話や簡単な放送などを聞き、聞いたことを書き留めたり分からないことを聞き返したりして、話の大体を捉えること。	相手が話したことで聞き取れないことについて聞き返している。		
			相手が話したことの大体を復唱して確認している。		
	イ		話したいことを決めて、（自分から話題を決めて）話している。		
		話す事柄を思い浮かべ、伝えたいことを決めること。	出来事や経験したことを話している。		
			伝えたい事柄の順序を決めて話している。		
		見聞きしたことや経験したこと、自分の意見などについて、内容の大体が伝わるように伝える順序等を考えること。	時系列に沿って、出来事や経験したことを話している。		
	エ	自己紹介や電話の受け答えなど、相手や目的に応じた話し方で話すこと。	丁寧な言葉遣いをするなど、場面に応じた話し方で話している。		
			電話でのやりとりの際に、「はい」「そうです」など、丁寧な言葉で応答している。		
	オ	相手の話に関心をもち、分かったことや感じたことを伝え合い、考えをもつこと。	相手が話したことに対する、自分の考え(肯定・否定・感想)を伝えている。		
			相手が話したことを基に、自分の考えを伝えている。		

段階の目標	指導事項	調査項目	判定	活動例
筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにする。	ア	相手の話したことで大事なところやキーワードを抜き出してメモしている。		・日記を書く ・日記の紹介 ・スピーチ ・新聞づくり ・電話への応答 ・話し合い ・司会 ・「〇〇について話そう」 ・個別学習
		身近な人の話や放送などを聞きながら、聞いたことを簡単に書き留めたり、分からないときは聞き返したりして、内容の大体を捉えること。	そのメモを見ながら、質問したり、内容を確かめたりしている。	
			伝えたい相手を決めて、話す事柄を考えている。	
	イ	相手や目的に応じて、自分の伝えたいことを明確にすること。	いつ、だれが、どこで、どうしたなど、出来事や状況の説明をしている。	
			教師や支援者に、話す順番を考えて話している。	
		見聞きしたことや経験したこと、自分の意見やその理由について、内容の大体が伝わるように伝える順序や伝え方を考えること。	理由などを加えて、自分の考えや気持ちを話している。	
	エ	相手に伝わるように発音や声の大きさ、速さに気を付けて話したり、必要な話し方を工夫したりすること。	声の大きさや早さを工夫して話している。	
			相手の顔や目を見て、話している。	
	オ	物事を決めるために、簡単な役割や進め方に沿って話し合い、考えをまとめること。	声の大きさと速さなどの話す際のポイントを振り返ったり気付いたりしている。	
			次第に沿って司会をしている。	
			友だちの意見の同じところや違うところに気付いている。	

聞くこと・話すこと

段階	段階の目標	指導事項	知識及び技能	調査項目	判定
高1 段階	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しむことができるようにする。	ア	(ア)	社会生活に係る人とのやり取りを通して、言葉には、考えたことや思ったことを表す動きがあることに気付くこと。	言葉には思いや考えをまとめたり伝えたりする働きがあることに気付くことができる。
			(イ)	相手に視線を向けて話したり聞いたりできる。	
				相手を見て話したり聞いたりするとともに、間の取り方などに注意して話すこと。	
			(ウ)	適度な間をとったり、抑揚などをつけたりして話すことができる。	
			(エ)	漢字と仮名を使って文を書くことができる。	
				漢字と仮名を用いた表記や送り仮名の付け方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点の使い方を意識して打つこと。	
			(オ)	表現したり理解したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には、性質や役割による語句のまとまりがあることを理解すること。	気持ちや行動、状態を表すために適切な言葉を用いて話したり、文を書いたりすることができる。
				接続語やつなぎ言葉を会話や文の中に用いることができる。	
		イ	(カ)	接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。	内容や時系列に応じて段落を分けて文を書くことができる。
			(キ)	日常よく使われる敬語を理解し使うこと。	相手や場面に応じて敬語や謙譲語などを使うことができる。
			(ク)	文章の構成や内容の大体を意識しながら音読すること。	文章の意味や内容を捉えながら音読したり、黙読したりできる。
			(ケ)	考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など、情報と情報との関係について理解すること。	考えについて、事例や理由を挙げて話したり書いたりすることができる。
			(コ)	話や文の中で中心となる事柄を捉えることができる。	
		ウ	(イ)	情報と情報を比べて、分類することができる。	
				比較や分類の仕方、辞書や事典の使い方などを理解し使うこと。	
			(エ)	辞書などを用いて、必要な情報を調べたり情報を得たりできる。	
高2 段階	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。	ア	(ア)	生活に身近なことわざや慣用句などを知り、使うこと。	ことわざや慣用句の意味を捉え、ふさわしい場面で用いることができる。
			(イ)	漢字の仕組みを理解し、読みやすいように字形を整えて書くことができる。	
			(ウ)	文字の組み立て方を理解し、形を整えて書くこと。	
			(エ)	幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。	
			(オ)	必要な情報を得るための本を選んだり、読書によって知識や情報を得ることができる。	
		イ	(ア)	社会生活に係る人とのやり取りを通して、言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。	言葉による依頼や報告、会話ややりとりなどでコミュニケーションを取ることができる。
			(イ)	話し言葉と書き言葉の違いがあることに気付くこと。	話し言葉と書き言葉の違いに気付くことができる。
			(ウ)	漢字と仮名を使い分けて文を書くことができる。	
				文や文章の中で漢字と仮名を使い分けて書くこと。	
			(エ)	書いた文を読み直して、読みやすいように漢字や仮名を書き直すことができる。	
			(オ)	「だから」「しかし」などの言葉を会話や文の中で用いることができる。	
				「～と考える」「～ではない」などの表現を会話や文の中で使うことができる。	
		ウ	(カ)	「始め－中－終わり」、「序論－本論－結論」などの文章の組み立てを理解して書くことができる。	
				紹介や案内、指示書などの文章の形態の違いを基に書き分けることができる。	
			(キ)	公的な場面や手紙等において、適切に敬語を用いることができる。	
			(ク)	抑揚や間の取り方等を工夫し、内容が伝わるように音読することができる。	
			(ケ)	原因と結果など、情報と情報との関係について理解すること。	原因と結果を捉えたり、説明したりできる。
			(コ)	情報と情報との関係付けの仕方を理解し使うこと。	共通項のある情報を分類したりまとめたりして整理することができる。
		エ	(ア)	親しみやすい古文などの文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。	簡単な古文を読むことができる。
			(イ)	生活の中で使われる慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。	慣用句や故事成語の意味を捉え、会話や文の中で用いることができる。
			(ウ)	用紙全体との関係に注意して、文字の大きさや配列などを決めて書くこと。	用紙の余白やサイズに応じた文字の大きさを書くことができる。
				文字間や行間に気を付けて文字などを配列して書くことができる。	
		オ	(イ)	読みやすく大きく丁寧な字で文字を書くことができる。	
			(エ)	目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書くこと。	対象た目的、場面に応じた適切な筆記具を用いて文字を書くことができる。
		(カ)	(イ)	日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くこと。	日常的に本を読んだり、読書に親しんだりすることができる。

段階	段階の目標	指導事項	思考力、判断力、表現力等	調査項目	判定	活動例
高1 段階	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しむことができるようにする。	ア	社会の中で関わる人の話などを、話し手が伝えたいことの中心に注意して聞き、話の内容を捉えること。	事柄や話す内容の順序を考えて話す内容を考えている。		・本の紹介 ・作業内容についての報告、連絡、相談 ・インタビューを行う ・サイコロトーク ・自己紹介 ・プレゼンテーション ・話し合い ・「感想を伝えよう」
				相手が話したことの中心や要点を捉えている。		
				テレビやラジオの放送を聞いて、自分に必要な情報を抜き出している。		
			イ	目的に応じて、自分自身の興味や関心がある事柄や、経験などについて、話したり説明や報告をしたりしている。		
				目的に応じて、話題を決め、集めた材料を比較するなど伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。	情報を得るために、質問やインタビューをしている。	
					話そうと考えた事柄が話題やテーマに合っているかを確かめている。	
			ウ	話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。	話したい事柄を決め、その理由や関連する事柄を追加したり、順番を整理したりしている。	
				相手に伝わるように、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。	会場の大きさや人数などに応じて、声の大きさを変えたり、場の状況に応じて丁寧言葉遣いや目線などに気を付けて話している。	
					産業現場等において、自己紹介や報告を行っている。	
			オ	1つの話題やテーマに沿って自分の考えを伝えている。		
				友だちとの意見の共通点や相違点に気付いている。		
				同じ意見や似た意見をまとめている。		
				役割を果たしながら話し合いを進めている。		
高2 段階	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。	ア	社会の中で関わる人の話などについて、話し手の目的や自分が聞きたいことの中心を捉え、その内容を捉えること。	聞きたいことを聞くために、質問やインタビューの内容を考えたり、聞いたりしている。		・本の紹介 ・作業内容についての報告、連絡、相談 ・インタビューを行う ・サイコロトーク ・自己紹介 ・プレゼンテーション ・話し合い、ディベート ・「思いや考えを伝えよう」
				目的や意図に応じて、話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合う内容を検討すること。	カテゴリごとに話の内容や情報を整理している。	
			イ	話の内容が明確になるように、話の構成を考えること。	場面や状況に応じて、話題を決め話している。	
					事実と意見、感想を区別して話している。	
					新たに説明を加えたり、言葉を付け足したりして、相手に伝わるように話している。	
			エ	伝えたいことと関連のある資料を選んでいる。		
				資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。	資料を提示しながら話したり、強調して話したりしている。	
					発表等を振り返り改善点に気付いている。	
		オ	互いの立場や意図を明確にししながら、計画的に話し合い、考えを上げたりまとめたりすること。	話し合いの内容や時間等を決めて話し合っている。		
					複数の意見をまとめて、結論を出している。	

書くこと

段階	書くこと			
	段階の目標	指導事項	知識及び技能	調査項目
小1段階	日常生活に必要な身近な言葉が分かり使うようになるとともに、いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようにする。	ア	(ア) 身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じること。	身近な人からの呼びかけに反応することができる。
			(イ) 言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりすること。	教師や友だちと一緒に声を出したり手を叩いたりすることができる。 言葉と事物とを結びつけることができる。
		ア	(ア) 昔話などについて、読み聞かせを聞くなどして楽しむこと。	わらべ歌や言葉遊び等を楽しむことができる。 特徴的な言い回しやフレーズを楽しんだり、動作化したりできる。
		イ	(イ) 遊びを通して、言葉のもつ楽しさに触れること。	擬態語を聞いて動作化したり、音まね、声まねをしたりすることができる。
			(ウ) いろいろな筆記具に触れ、書くことを知ること。	身近な筆記具を手にとって、書こうとすることができる。
			(ウ) 筆記具の持ち方や、正しい姿勢で書くことを知ること。	着席して、机上の紙に筆記具で書くことができる。 正しい持ち方で鉛筆等を保持したり、線などを書いたりすることができる。
			(エ) 読み聞かせに注目し、いろいろな絵本などに興味をもつこと。	挿絵に注目したり、出てくる言葉や擬音語を声に出したりすることができる。

段階	書くこと			
	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
小2段階	日常生活に必要な身近な言葉を身に付けるとともに、いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようにする。	ア	(ア) 身近な人の話し掛けや会話などの話し言葉に慣れ、言葉が、気持ちや要求を表していることを感じること。	テレビやラジオを含め、人が話している言葉に注意を向けることができる。 気持ちや要求を言葉で伝えたり、挨拶を交わったりできる。
			(イ) 日常生活でよく使われている平仮名を読むこと。	平仮名を一字ずつ読むことができる。 平仮名で書かれた単語を語のまとまりで読むことができる。
		イ	(ウ) 身近な人との会話を通して、物の名前や動作など、いろいろな言葉の種類に触れること。	物の名前や動作を表す言葉(単語動詞等)を話すことができる。
			(ア) 昔話や童謡の歌詞などの読み聞かせを聞いたり、言葉などを模倣したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。	物語の冒頭や一部を真似ることができる。
			(イ) 遊びややり取りを通して、言葉による表現に親しむこと。	わらべ歌や手遊び歌等を動きと言葉で楽しむことができる。
			(ウ) いろいろな筆記具を用いて、書くことに親しむこと。	黒板や面用紙などに、チョークや鉛筆、フェルトペン、クレヨンなどの筆記具で線楽しく書くことができる。
		イ	(ウ) 正しい姿勢など、書写の基本を身に付けること。	筆記具を正しく持って、平仮名の写し書きやなぞり書きができる。 正しい姿勢で、平仮名の写し書きやなぞり書きができる。
			(エ) 読み聞かせに親しんだり、文字を拾い読みしたりして、いろいろな絵本や図鑑などに興味をもつこと。	図鑑や絵本を見ながら拾い読みをしたり、知っている言葉を読んだりできる。

段階	書くこと			
	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
小3段階	日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に触れ、親しむことができるようにする。	ア	(ア) 身近な人との会話や読み聞かせを通して、言葉には物事の内容を表す働きがあることに気付くこと。	言葉による意味の違いに気付くことができる。
			(イ) 姿勢や口形に気を付けて話すこと。	よい姿勢で、口を大きく開けてはっきりと話することができる。
		ア	(ウ) 日常生活でよく使う促音、長音などが含まれた語句、平仮名、片仮名、漢字の正しい読み方を知ること。	長音や促音等を含んだ言葉や短い文を読むことができる。 カタカナを一字ずつないしはカタカナの単語を読むことができる。 身近な漢字や簡単な漢字を読むことができる。
			(エ) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。	単語を意味のまとまりで区切って読むことができる。 食べ物、色など、ジャンルごとに単語を分けることができる。
			(オ) 文の中における主語と述語との関係や助詞の使い方により、意味が変わることを知ること。	主語と述語を用いて話したり、短い文を書いたりすることができる。 助詞の違いによる意味の違いに気付くことができる。
		イ	(カ) 正しい姿勢で音読すること。	明瞭な発音や正しい語のまとまりやリズムで、文章を音読することができる。
			(ア) 物事の始めと終わりなど、情報と情報との関係について理解すること。	物事の順序や手順を捉えることができる。
			(イ) 図書を用いた調べ方を理解し使うこと。	目的の本やページを見付けることができる。

--	--	--	--	--

段階	書くこと			
	段階の目標	指導事項	思考力、判断力、表現力等	判定
小4段階	言葉のイメージしたり、言葉による関わりを受け止めたりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合い、自分の思いをもつことができるようにする。	ア	身近な人との関わりや出来事について、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること。	具体物や絵、写真を指さしたり手に取ったりして考えを伝えている。
		イ	文字に興味をもち、書こうとすること。	文字を書く様子に興味を示したり、注目したりしている。 身近な文字に興味を示し、指さしたりしている。 筆記具を持って線を描いたり、殴り書きをしたりしている。

段階	書くこと			
	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
小5段階	言葉が表す事柄を想起したり受け止めたりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合い、自分の思いをもつことができるようにする。	ア	経験したことのうち身近なことについて、写真などを手掛かりにして、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること。	具体物や絵、写真などを手に取ったり見せたりして、気持ちを伝えようとしている。 具体物や絵、写真などに喃語や言葉を合わせて伝えようとしている。
		イ	自分の名前や物の名前を文字で表すことができることを知り、簡単な平仮名をなぞったり、書いたりすること。	平仮名で書かれた自分のロッカーなどの場所を捉えている。 絵と単語をマッチングしている。 平仮名をなぞり書きしている。(交差のない平仮名) 平仮名をなぞり書きしている。(交差のある平仮名) 平仮名をなぞり書きしている。(曲線のある平仮名) ○△×□などの形をなぞったり書いたりしている。 平仮名を写し書きしている。 平仮名をなぞり書きしている。(平仮名50音)

段階	書くこと			
	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
小6段階	出来事や経験したことを伝え合う体験を通して、いろいろな語句や文の表現に触れること。	ア	身近で見聞きしたり、経験したりしたことについて書きたいことを見付け、その題材に必要な事柄を集めること。	書きたいことを決めたり、関連する写真や絵を選んだりしている。
			見聞きしたり、経験したりしたことから、伝えたい事柄の順序を考えること。	書きたいことや書く順番を決めている。
		ウ	見聞きしたり、経験したりしたことについて、簡単な語句や短い文を書くこと。	見聞きしたり経験したりしたことを、単語や短い文で書いている。 はじめ・なか・おわりで文を書いている。
		エ	書いた語句や文を読み、間違いを直すこと。	文を読んだり読み直したりして、書き間違いや助詞の間違いに気付いている。 気付いた間違いを正しい表記などに修正したりしている。
		オ	文などに対して感じたことを伝えること。	文を読んで感じたことや気付いたことを伝えている。 文を読んで疑問に思ったことを質問している。

活動例	
・「選んで書こう」 ・「〇組の思い出」 ・「お手紙どうぞ」 ・係活動(敵立係) ・個別学習	
・「選んで書こう」 ・「〇組の思い出」 ・「お手紙どうぞ」 ・日記 ・係活動(予定係) ・個別学習	
・「選んで書こう」 ・「〇組の思い出」 ・「お手紙どうぞ」 ・日記 ・係活動(予定係) ・個別学習	

書くこと

段階	段階の目標		知識及び技能		判定	
	指導事項	調査項目				
中1段階	日常生活や社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しむことができるようにする。	ア	(ア)	身近な大人や友達とのやり取りを通して、言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。	身近な人からの話しかけや指示内容を捉えることができる。	
			(イ)	発音や声の大きさに気を付けて話すこと。	姿勢や口形に気を付けて話すことができる。	
					相手との距離に応じた声の大きさを話することができる。	
			(ウ)	長音、拗(よう)音、促音、撥(はつ)音、助詞の正しい読み方や書き方を知ること。	文の中にある、長音や拗よう音、促音、撥音を正しく読むことができる。	
					「は」、「へ」、「を」などの助詞を正しく使うことができる。	
			(エ)	言葉には、意味による語句のまとまりがあることを理解するとともに、話し方や書き方によって意味が異なる語句があることに気付くこと。	同音異義語や対義語などについてその違いに気付くことができる。	
					主語と述語を正しく用いて話したり文を書いたりできる。	
			(オ)	主語と述語との関係や接続する語句の役割を理解すること。	接続語を適切に用いることができる。	
					相手や場面に応じて、敬語や丁寧語を用いることができる。	
			(カ)	普通の言葉との違いに気を付けて、丁寧な言葉を使うこと。	言葉の意味を捉えて、相手に伝わるように言葉や文を読むことができる。	
		イ	(ア)	事柄の順序など、情報と情報との関係について理解すること。	人の話を聞いたり、文を読んだりしたことを正しく捉えることができる。	
					出来事について、いつ、誰が、なにをしたを時系列に沿って整理することができる。	
			(ア)	自然や季節の言葉を取り入れた俳句などを聞いたり作ったりして、言葉の響きやリズムに親しむこと。	一定の音やリズムに沿って俳句や短歌を読んだり作ったりすることができる。	
	季語や情景を理解し、俳句などに取り入れることができる。					
	ウ	(イ)	挨拶状などに書かれた語句や文を読んだり書いたりし、季節に応じた表現があることを知ること。	時候のあいさつや、定型的な表現を知り、用いることができる。		
				字形を整えて、身の回りの漢字を書くことができる。		
		(ウ)ア	姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くこと。	点画の方向や長短に気を付けて漢字や平仮名を書くことができる。		
(ウ)イ		点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して文字を書くこと。	様々な形態の文章があることに気付くことができる。			
中2段階	日常生活や社会生活、職業生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しむことができるようにする。	ア	(ア)	日常生活の中での周りの人とのやり取りを通して、言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。	気持ちや感情を表す言葉を用いて気持ちを表現することができる。	
					(イ)	発声や発音に気を付けたり、声の大きさを調節したりして話すこと。
			(ウ)	長音、拗(よう)音、促音、撥(はつ)音などの表記や助詞の使い方を理解し、文や文章の中で使うこと。	文の中で長音や促音、助詞を用いることができる。	
					(エ)	理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、使える範囲を広げること。
			(オ)	修飾と被修飾との関係、指示する語句の役割について理解すること。	修飾語を用いたり、修飾・被修飾の関係を捉えたりできる。	
					(カ)	敬体と常体があることを理解し、その違いに注意しながら書くこと。
			(キ)	内容の大体を意識しながら音読すること。	文章全体の大体を理解することができる。	
					登場人物の気持ちや行動の変化を捉えることができる。	
					文章を読んで、いつ、どこで、だれが、なにをしたかを捉えることができる。	
		(ア)	考えとそれを支える理由など、情報と情報との関係について理解すること。	理由を加えて、考えを伝えることができる。		
				(イ)	必要な語や語句の書き留め方や、比べ方などの情報の整理の仕方を理解し使うこと。	必要な言葉をメモすることができる。
		自分と相手の考えの同じ所や異なるところに気付くことができる。				
		ウ	(ア)	易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。	文語調の短歌や俳句を読むことができる。	
	(イ)				生活に身近なことわざなどを知り、使うことにより様々な表現に親しむこと。	ことわざの意味を知り、文や会話の中で用いることができる。
	(ウ)ア		点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くこと。	正しい点画を捉え、字形を整えて書くことができる。		
				正しい筆順で平仮名や片仮名を書くことができる。		
	(ウ)イ		漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。	「へん」と「つくり」の大小や文字の大きさなど、文字のバランスを整えて書くことができる。		
				文字と文字の間隔や行間がおおよそ同じになるように文字を書くことができる。		
	(エ)	幅広く読書に親しみ、本にはいろいろな種類があることを知ること。	いろいろな種類の本を手にとって読んだり、情報を得たりできる。			
学校図書館で目的の本を探すことができる。						

段階	思考力、判断力、表現力等			
	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
中1段階	順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。	ア	身近な出来事や経験したことから書きたいことを決めている。	
			見聞きしたことや経験したことの中から、伝えたい事柄を選び、書く内容を大まかにまとめること。	
		イ	始め・中・終わりの構成で文を書いている。	
			相手に伝わるように事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。	
		ウ	意味がつながるように単語や言葉を組み合わせている。	
			文の構成、語句の使い方に気を付けて書くこと。	
		エ	時系列や順序を表す語句に気を付けて文を書いている。	
			文を読み返し、助詞や表現の間違いに気付いて直している。	
		オ	自分が書いたものを読み返し、間違いを正すこと。	
			より考えが伝わるように、表現や用いる語句を変えている。	
中2段階		イ	文章を読んだ感想を伝えている。	
			文章に対する感想をもち、伝え合うこと。	

- ・日記を書く
- ・日記の紹介
- ・スピーチ
- ・新聞づくり
- ・電話への応答
- ・話し合い
- ・「〇〇を書こう」
- ・個別学習

段階	思考力、判断力、表現力等			
	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
中1段階	筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。	ア	経験したことを基に、感想文や日記を書いている。	
			相手や目的を意識して、見聞きしたことや経験したことの中から書くことを選び、伝えたいことを明確にすること。	
		イ	対象を決めて、案内や紹介文を書いている。	
			考えとその理由を明確にして文を書いている。	
		ウ	書く内容の中心を決め、自分の考えと理由などとの関係を明確にして、文章の構成を考えること。	
			内容のまとまりごとに、段落を用いて書いている。	
		エ	事実と自分の考えとの違いなどが相手に伝わるように書き表し方を工夫すること。	
			文末に「思う」「考える」「です」などを用いて事実と自分の考えを書き分けている。	
		オ	自分から書いた文を読み返している。	
			文章を読み返す習慣を身に付け、間違いを正したり、語と語との続き方を確かめたりすること。	
中2段階		イ	表記や助詞、主述や修飾被修飾の関係について見直している。	
			話し言葉と書き言葉、敬体や常体を区別して書いている。	

- ・報告文や説明文を書く
- ・日記を書く
- ・日記の紹介
- ・スピーチ
- ・新聞づくり
- ・電話への応答
- ・話し合い
- ・司会
- ・「〇〇を書こう」
- ・個別学習

書くこと

段階	段階の目標	知識及び技能		判定				
		指導事項	調査項目					
高1段階	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しむことができるようにする。	ア	(ア) 社会生活に係る人とのやり取りを通して、言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。	言葉には思いや考えをまとめて伝えたりする働きに気付くことができる。				
			(イ) 相手を見て話したり聞いたりするとともに、間の取り方などに注意して話すこと。	相手に視線を向けて話したり聞いたりできる。				
				(ウ) 漢字と仮名を用いた表記や送り仮名の付け方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点の使い方を意識して打つこと。			漢字と仮名を使って文を書くことができる。	
			(エ) 表現したり理解したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には、性質や役割による語句のまとまりがあることを理解すること。		句読点を適切に使って文を書くことができる。			
				(オ) 接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。	接続語やつなぎ言葉を会話や文の中に用いることができる。			
			(カ) 日常よく使われる敬語を理解し使うこと。		内容や時系列に応じて段落を分けて文を書くことができる。			
				(キ) 文章の構成や内容の大体を意識しながら音読すること。	相手や場面に応じて敬語や謙譲語などを使うことができる。			
			イ		(ア) 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など、情報と情報との関係について理解すること。	文章の意味や内容を捉えながら音読したり、黙読したりできる。		
				(イ) 比較や分類の仕方、辞書や事典の使い方などを理解し使うこと。	考えについて、事例や理由を挙げて話したり書いたりすることができる。			
		(イ) 比較や分類の仕方、辞書や事典の使い方などを理解し使うこと。			話や文の中で中心となる事柄を捉えることができる。			
			ウ	(ア) 生活に身近なことわざや慣用句などを知り、使うこと。	情報と情報を比べて、分類することができる。			
		(イ) 文字の組み立て方を理解し、形を整えて書くこと。		辞書などを用いて、必要な情報を調べたり情報を得たりできる。				
				(ウ) 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。			ことわざや慣用句の意味を捉え、ふさわしい場面で用いることができる。	
		(イ) 文字の組み立て方を理解し、形を整えて書くこと。	漢字の仕組みを理解し、読みやすいように字形を整えて書くことができる。					
			(ウ) 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。	必要な情報を得るための本を選んだり、読書によって知識や情報を得ることができる。				
		段階		段階の目標	指導事項		調査項目	判定
		高2段階	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。	ア	(ア) 社会生活に係る人とのやり取りを通して、言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。	言葉による依頼や報告、会話ややりとりなどでコミュニケーションを取ることができる。		
					(イ) 話し言葉と書き言葉に違いがあることに気付くこと。	話し言葉と書き言葉の違いに気付くことができる。		
						(ウ) 文や文章の中で漢字と仮名を使い分けて書くこと。		
					(エ) 表現したり理解したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにすること。		書いた文を読み直して、読みやすいように漢字や仮名を書き直すことができる。	
						(オ) 文と文との接続の関係、話や文章の構成や種類について理解すること。	「だから」「しかし」のように、情報と情報との関係を表す言葉を会話や文の中で用いることができる。	
(カ) 日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。	「～と考える」「～だろう」のように、思考そのものに関わる表現を会話や文の中で使うことができる。							
	(キ) 文章を音読したり、朗読したりすること。					「始め－中－終わり」、「序論－本論－結論」などの文章の組み立てを理解して書くことができる。		
イ					(イ) 文と文との接続の関係、話や文章の構成や種類について理解すること。	紹介や案内、指示書などの文章の形態の違いを基に書き分けることができる。		
	(カ) 日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。				公的な場面や手紙等において、適切に敬語を用いることができる。			
				(キ) 文章を音読したり、朗読したりすること。	抑揚や間の取り方等を工夫し、内容が伝わるように音読することができる。			
ウ	(ア) 原因と結果など、情報と情報との関係について理解すること。				原因と結果を捉えたり、説明したりできる。			
	(イ) 情報と情報との関係付けの仕方を理解し使うこと。			共通項のある情報を分類したりまとめて整理することができる。				
				(イ) 親しみやすい古文などの文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。			簡単な古文を読むことができる。	
(イ) 生活の中で使われる慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。	慣用句や故事成語の意味を捉え、会話や文の中で用いることができる。							
	(ウ) 用紙全体との関係に注意して、文字の大きさを決めて書くこと。			用紙の余白やサイズに応じた文字の大きさを書くことができる。				
(イ) 用紙全体との関係に注意して、文字の大きさを決めて書くこと。				文字間や行間に気を付けて文字などを配列して書くことができる。				
	(ウ) 目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書くこと。			読みやすく大きく丁寧な字で文字を書くことができる。				
(イ) 目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書くこと。				対象した目的、場面に応じた適切な筆記具を用いて文字を書くことができる。				
	(エ) 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くこと。			日常的に本を読んだり、読書に親しんだりすることができる。				

段階の目標		指導事項	調査項目	判定	活動例
筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにする。	ア	相手や目的を意識して、書くことを決め、集めた材料を比較するなど、伝えたいことを明確にすること。	目的や相手を明確にして書いている。		・「わかりやすく書く」 ・自己紹介文 ・委員会の活動内容紹介文
			体験したことや調べたことを書く内容としている。		
			集めた材料の中から書くことを選んだり整理したりしている。		
	イ	書く内容の中心を決め、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。	書きたいことの中心を決めている。(中心を決めることができる)		
			考えと理由や具体例を示して書いている。		
			文章の内容や構成に応じて段落を用いて書いている。		
	ウ	自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。	「なぜなら～」「～のためである」等の表現を用いて理由を示している。		
			「例えば～」「～などがある」等の表現で事例を含んで文を書いている。		
	エ	間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。	主述の関係が明確になっているか気付いている。		
			長音や拗音などの表記や助詞について見直したり修正したりしている。		
			敬体と常体の文末表現を使い分けている。		
			文章の内容や表現が相手や目的にふさわしいか見直したり修正したりしている。		
オ	書くこととしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。	書きたいことが書いてあるか読み返している。			
		記述の仕方等で工夫したことを伝えている。			

段階の目標	指導事項	調査項目	判定	活動例	
筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げることができるようにする。	ア	集めた材料の共通点や相違点を基に整理している。		・暑中見舞い ・就業体験へのお礼状	
		目的や意図に応じて、書くことを決める。集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。	事実、意見、感想などを場面や状況、目的に応じて書いている。		
	イ	伝えたいことを決めて、文を書いている。			
		筋道の通った文章となるように、文章全体の構成を考えること。	接続語を用いたり、考えや理由を表したりして段落ごとに文を書いている。		
	ウ	書く目的に応じて、詳しく書く部分を決めて書いている。			
		目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。	事実と意見を文末表現などにも工夫して書き分けている。		
	エ	引用して文章を書いている。			
		引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。	図表を用いるなど、考えが伝わるように書いている。		
	オ	上記のア、イ、ウ、エの内容を基に文章を見直している。			
		文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。	見直した文章を修正している。		
	カ	文章全体の構成が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。	文章を読みあい、自分や他人の文章の良いところに気付いたり見つけたりしている。		

読むこと

段階		知識及び技能			判定		
段階の目標		指導事項	調査項目				
小1 段階	日常生活に必要な身近な言葉が分かり使うようになるとともに、いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようにする。	ア	(7) 身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じること。	身近な人からの呼びかけに反応することができる。			
			(4) 言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりすること。	教師や友だちと一緒に声を出したり手を叩いたりすることができる。		言葉と事物とを結びつけることができる。	
		(7) 昔話などについて、読み聞かせを聞くなどして親しむこと。	わらべ歌や言葉遊び等を楽しむことができる。				
			特徴的な言い回しやフレーズを楽しんだり、動作化したりできる。				
			(4) 遊びを通して、言葉のもつ楽しさに触れること。		擬態語を聞いて動作化したり、音まね、声まねをしたりすることができる。		
		イ	(ウ) ア いろいろな筆記具に触れ、書くことを知ること。	身近な筆記具を手にとって、書くことができる。			
				着席して、机上の紙に筆記具で書くことができる。			
(ウ) イ 筆記具の持ち方や、正しい姿勢で書くことを知ること。	正しい持ち方で鉛筆等を保持したり、線などを書いたりすることができる。						
(エ) 読み聞かせに注目し、いろいろな絵本などに興味をもつこと。	挿絵に注目したり、出てくる言葉や擬音語を声に出したりすることができる。						

段階の目標	指導事項	調査項目	判定		
小2段階 日常生活に必要な身近な言葉を身に付けるとともに、いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようにする。	ア	(7)	テレビやラジオを含め、人が話している言葉に注意を向けることができる。 気持ちや要求を言葉で伝えたり、挨拶をしあったりできる。		
		(4)	平仮名を一字ずつ読むことができる。 平仮名で書かれた単語を語のまとまりで読むことができる。		
			(7)	身近な人との会話を通して、物の名前や動作を表す言葉(単語動詞等)を話すことができる。	
		(7)	物語の冒頭や一部を真似ることができる。		
		(4)	わらべ歌や手遊び歌などを動きと言葉で楽しむことができる。		
		(7)	いろいろな筆記具を用いて、書くことに親しむこと。		
	イ	(7)	筆記具を正しく持って、平仮名の写し書きやなぞり書きができる。 正しい姿勢で、平仮名の写し書きやなぞり書きができる。		
			(エ)	読み聞かせに親しんだり、文字を拾い読みしたりして、いろいろな絵本や図鑑などに興味をもつこと。	

段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定	
小3段階	日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に触れ、親しむことができるようにする。	(ア)	身近な人との会話や読み聞かせを通して、言葉には物事の内容を表す働きがあることに気付くこと。	言葉による意味の違いに気付くことができる。	
		(イ)	姿勢や口形に気を付けて話すこと。	よい姿勢で、口を大きく開けてはっきりと話すことができる。	
		(ウ)	日常生活でよく使う促音、長音などが含まれた語句、平仮名、片仮名、漢字の正しい読み方を知ること。	長音や促音等を含んだ言葉や短い文を読むことができる。	
				カタカナを一字ずつないしはカタカナの単語を読むことができる。	
				身近な漢字や簡単な漢字を読むことができる。	
		ア	(エ)	言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。	単語を意味のまとまりで区切って読むことができる。
					食べ物、色など、ジャンルごとに単語を分けることができる。
		(オ)	文の中における主語と述語との関係や助詞の使い方により、意味が変わることを知ること。	主語と述語を用いて話したり、短い文を書いたりすることができる。	
				助詞の違いによる意味の違いに気付くことができる。	
		イ	(カ)	正しい姿勢で音読すること。	明瞭な発音や正しい語のまとまりやリズムで、文章を音読することができる。
イ	(ク)	物事の始めと終わりなど、情報と情報との関係について理解すること。	物事の順序や手順を捉えることができる。		
ウ	(ク)	図書を用いた調べ方を理解し使うこと。	目的の本やページを見付けることができる。		
ウ	(ア)	昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き、言葉の響きやリズムに親しむこと。	昔話や神話などの独特な表現をまねたり音読したりすることができる。		
ウ	(イ)	出来事や経験したことを伝え合う体験を通して、いろいろな語句や文の表現に触れること。	教師や友だちが用いた表現や言葉を実似たり取り入れたり話すことができる。		
ウ	(ウ)	目的に合った筆記具を選び、書くこと。	マスの大きさや行の幅に応じて文字の大きさや文量を変えて書くことができる。		
			見やすさなどを踏まえて筆記具を選んだり、記号や図を用いたりできる。		
ウ	(イ)	姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、平仮名や片仮名の文字の形に注意しながら丁寧に書くこと。	正しい筆記具の持ち方で、字形を整えて丁寧に書くことができる。		
ウ	(エ)	読み聞かせなどに親しみ、いろいろな絵本や図鑑があることを知ること。	様々な絵本や図鑑を自ら手に取って読むことができる。		

段階の目標		指導事項	思考力、判断力、表現力等	調査項目	判定
ア		教師と一緒に絵本などを見て、示された身近な事物や生き物などに喜び、注目すること。	絵本や紙芝居、写真、絵、映像などを題材として、教師の読み聞かせを笑顔で聞いたり、喜ぶ様子を見せたりしている。		
		絵本などを見て、知っている事物や出来事などを指さしなどで表現すること。	絵本や写真を題材として、教師が話をした事物を挿絵の中から選んで指差ししたり、視線を向けたりしている。		
イ	言葉やイメージしたり、言葉による関わりを受け止めたりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合い、自分の思いをもつことができるようにする。		行きたい場所や、やってみたいことなどについて、場所や動作を表す絵や写真、シンボルマーク、「○×→」などの簡単な記号を選んで教師に伝えようとしている。		
		絵や矢印などの記号で表された意味に応じ、行動すること。	教師が場所や動作を表す絵や写真、シンボルマーク、「○×→」などの簡単な記号を提示して簡単な指示を出した際に、その指示に従って行動している。		
エ		絵本などを見て、次の場面を楽しみにしたり、登場人物の動きなどを模倣したりすること。	簡単な話の絵本などを見聞かし、言葉の持つ音やリズム、イメージなどを感じ取って、次の場面を楽しみに待ったり、動作を模倣したりしている。		

段階の目標	指導事項	調査項目	判定
言葉が表す事柄を想起したり受け止めたりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え、自分の思いをもつことができるようにする。	ア 教師と一緒に絵本などを見て、登場するものや動作などを思い浮かべること。	親しみのある絵本の絵や題名などを見て、どんな登場人物が出てくるのか話している。 親しみのある絵本の絵や題名などを見て、場面の様子や登場人物の行動などについて、言葉や動作で表している。	
	教師と一緒に絵本などを見て、時間の経過などの大体を伝えること。	2つの場面を見比べて、場面の違いを話したり、内容を話したりしている。 絵本を見て、「次に何が出てくるかな」といった教師の問いに、指さしや言葉で答えている。	
	日常生活でよく使われている表示などの特徴に気付く、読もうとしたり、表された意味に応じた行動をしたりすること。	校内や登下校時に見かけるシンボルマークや標識について、意味を動作で表したり、話したりしている。	
	エ 絵本などを見て、好きな場面を伝えたり、言葉などを模倣したりすること。	絵本の読み聞かせや楽しかった思い出などについて、好きな場面を伝えたり、好きな言葉を模倣したりしている。	

段階の目標	指導事項	調査項目	判定
出来事の順序を思い出す力や感じたことや想像したる力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身につけ、思いやり考えたりすることができるようにする。	ア 絵本や易しい読み物などを読み、挿絵と結び付けて登場人物の行動や場面の様子などを想像すること。	3～10人組の場面の読み物について、登場人物の表情や気持ち、時間の経過や場面の前後関係などを読み取って話している。	
		場面の様子を表した挿絵のイラストを場面の順番に並べ替えている。	
	絵本や易しい読み物などを読み、時間的な順序など内容の大体を捉えること。	「次に出るのかな」「誰が何をしたのかな」といった問いに、絵本を基に答えている。	
	日常生活に必要な語句や文、看板などを読み、必要な物を選んだり行動したりすること。	身近な生活に必要なきまりや立て札、標識に書かれた言葉を見て、どこにあるものなのか、文字や記号、絵が何を表しているのか話している。	
エ 登場人物になったつもりで、音読したり演じたりすること。		「このとき〇〇(登場人物)はどんな気持ちだったでしょう」という問いかけに、絵本を基に答えている。	
		音読の声の大きさや速さ、表情などをどのように工夫すればよいのか考えながら、音読したり演じたりしている。	

<p>活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本や紙芝居の読み聞かせをしたり、動作化したりする ・絵本や紙芝居の気に入った挿絵を指差す ・簡単な演劇
<p>活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取り扱う絵本 <ul style="list-style-type: none"> 「はらぺこあおむし」 「おおきなかぶ」 「だるまさんシリーズ」 「へんしん、〇〇シリーズ」 「さんかくサンタ」
<p>活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・詩の音読 ・絵本や紙芝居の読み聞かせを題材として、言葉や動作で表す ・場面の変化を読み取る ・身近な地域でのマークや標識探し ・演劇
<p>活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取り扱う絵本 <ul style="list-style-type: none"> 「なにをたべようかな」 「おもしろりん」 「まどからおくりもの」 「ぐりとぐらシリーズ」
<p>活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・詩の音読や朗読 ・身近な地域での標識探し ・表現方法を工夫した演劇
<p>活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取り扱う絵本 <ul style="list-style-type: none"> 「きょうだいなきよだいな」 「泣いた赤鬼」 「ゆかいなゆうびんやさんのクリスマス」 「プレーメンの音楽隊」 「桃太郎」

読むこと

段階	読者の段階			
	段階の目標	指導事項	知識及び技能	調査項目
中1段階	日常生活や社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しむことができるようにする。	ア	(ア)	身近な大人や友達とのやり取りを通して、言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。
				姿勢や口形に気を付けて話すことができる。
				相手との距離に応じた声の大きさで話すことができる。
			(イ)	発音や声の大きさに気を付けて話すこと。
				文の中にある、長音や拗よう音、促音、撥音を正しく読むことができる。
				「は」、「へ」、「を」などの助詞を正しく使うことができる。
			(ウ)	長音、拗(よう)音、促音、撥(はつ)音、助詞の正しい読み方や書き方を知ること。
				言葉には、意味による語句のまとまりがあることを理解するとともに、話し方や書き方によって意味が異なる語句があることに気付くこと。
				同音異義語や対義語などについてその違いに気付くことができる。
			(エ)	主語と述語を正しく用いて話したり文を書いたりできる。
				接続語を適切に用いることができる。
			(カ)	普通の言葉との違いに気を付けて、丁寧な言葉を使うこと。
				言葉の意味を捉えて、相手に伝わるように言葉や文を読むことができる。
			(キ)	語のまとまりに気を付けて音読すること。
				人の話を聞いたり、文を読んだりしたことを正しく捉えることができる。
				出来事について、いつ、誰が、なにをしたを時系列に沿って整理することができる。
中2段階	日常生活や社会生活、職業生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しむことができるようにする。	イ	(ア)	事柄の順序など、情報と情報との関係について理解すること。
				一定の音やリズムに沿って俳句や短歌を読んだり作ったりすることができる。
				自然や季節の言葉を取り入れた俳句などを聞いたり作ったりして、言葉の響きやリズムに親しむこと。
			(ア)	挨拶状などに書かれた語句や文を読んだり書いたりし、季節に応じた表現があることを知ること。
				時候のあいさつや、定型的な表現を知り、用いることができる。
				姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くこと。
			(ウ)	点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して文字を書くこと。
				読書に親しみ、簡単な物語や、自然や季節などの美しさを表した詩や紀行文などがあることを知ること。
				様々な形態の文章があることに気付くことができる。
			(ア)	日常生活の中での周りの人とのやり取りを通して、言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。
				気持ちや感情を表す言葉を用いて気持ちを表現することができる。
				聞き手に聞こえる明瞭さや声量で話すことができる。
			(イ)	発声や発音に気を付けたり、声の大きさを調節したりして話すこと。
				文の中で長音や促音、助詞を用いることができる。
				理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、使える範囲を広げること。
			(エ)	修飾と被修飾との関係、指示する語句の役割について理解すること。
				修飾語を用いたり、修飾・被修飾の関係を捉えたりできる。
				敬体と常体があることを理解し、その違いに注意しながら書くこと。
			(カ)	敬体と常体を用いたり、使い分けたりできる。
				文章全体の大体を理解することができる。
				登場人物の気持ちや行動の変化を捉えることができる。
			(キ)	文章を読んで、いつ、どこで、だれが、なにをしたかを捉えることができる。
			(ア)	考えとそれを支える理由など、情報と情報との関係について理解すること。
				理由を加えて、考えを伝えることができる。
				必要な言葉をメモすることができる。
			(イ)	必要な語や語句の書き留め方や、比べ方などの情報の整理の仕方を理解し使うこと。
				自分と相手の考えの同じ所や異なるところに気付くことができる。
			(ア)	易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。
				文語調の短歌や俳句を読むことができる。
				ことわざの意味を知り、文や会話の中で用いることができる。
			(イ)	生活に身近なことわざなどを知り、使うことにより様々な表現に親しむこと。
				正しい点画を捉え、字形を整えて書くことができる。
				正しい筆順で平仮名や片仮名を書くことができる。
			(ウ)	点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くこと。
				「へん」と「つくり」の大小や文字の大きさを、文字のバランスを整えて書くことができる。
				漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。
			(ウ)	漢字と文字の間隔や行間がおおよそ同じになるように文字を書くことができる。
				いろいろな種類の本を手にとって読んだり、情報を得たりできる。
				幅広い読書に親しみ、本にはいろいろな種類があることを知ること。
			(エ)	学校図書館で目的の本を探すことができる。

段階	読者の段階			
	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
中3段階	日常生活や社会生活、職業生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しむことができるようにする。	ア	簡単な物語や紀行文、詩、短い劇の脚本など、挿絵の少ない本や文章を読んでいる。	
			簡単な文や文章を読み、情景や場面の様子、登場人物の心情などを想像すること。	
			物語の展開に即して、場面の様子の変化を捉えている。	
		イ	語や語句の意味を基に時間的な順序や事柄の順序など内容の大体を捉えること。	
			時間を表す言葉や接続する語句などに着目し、文や文章の時間的な前後関係の大体を捉えている。	
			身近なものの使用法や簡単な料理法の説明書を読み、大体の使い方や作り方を捉えている。	
		ウ	日常生活に必要な語句や文章などを読み、行動すること。	
			表示や看板、ポスター、広告などが表す意味を考え、それらに従って行動している。	
			興味のある新聞記事や雑誌、電子メール等を読んでいる。	
		エ	文章を読んで分かったことを伝えたり、感想をもったりすること。	
			文章を読んで印象に残ったフレーズを選んだり、文章全体の印象や内容に対する思いを自分なりの言葉で表現したりしている。	
		オ	読んで感じたことや分かったことを伝え合い、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。	
			友だちの発表を聞いて、自分の感じたことや分かったことの違いに気付く、それを教師や友だちに伝えている。	
		カ	文章を読んで、感じたことや分かったことを教師や友だちに伝えている。	

活動例
・「本の内容を伝えよう」学習で使った図書 ・「おてがみもらったおへんじかい」(あかね書房) ・「ひ・み・つ」(童心社) ・「もりのゆうびんきょく」(偕成社) ・「ゆうびんやのくまさん」(福音館書店) ・「ゆかいなゆうびんやさん」(文研出版) ・「コアラゆうびん」(理論社) ・「はるかぜのホネホネさん」(福音館書店) ・「フェリックスの手紙」(プロンズ社) ・「きょうはなんのひ」(福音館書店) ・「こっそりおてがみ」(草土文化) ・「こんちにはおてがみです」(福音館書店) ・「王さまダイマのてがみ」(理論社) ・「てがみをください」(文研出版) ・「たんじょうびのふしぎなてがみ」(偕成社) ・「ゆうびんやさんおねがいね」(徳間書店) ・「てがみはすてきなおくりもの」(講談社) ・「おへんじください」(偕成社) ・「ピーターのてがみ」(偕成社)

段階	読者の段階			
	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
中3段階	日常生活や社会生活、職業生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しむことができるようにする。	ア	様々な読み物を読み、情景や場面の様子、登場人物の心情などを想像すること。	
			叙述を基に、登場人物の心情を想像している。	
			「は」、「に」、「を」、「と」等の助詞や、「そして」、「しかし」等の接続する語句に注意しながら読んでいる。	
		イ	語と語や文と文との関係を基に、出来事の順序や気持ちの変化など内容の大体を捉えること。	
			出来事の順序や、登場人物の気持ちを読み取っている。	
			日常生活や社会生活、職業生活に必要な語句、文章、表示などの意味を読み取り、行動すること。	
		ウ	日常生活や社会生活、職業生活に必要な語句や文を明確にしながら読むこと。	
			文や文章を読んで、中心となる言葉や文、情報を適切に選択しながら内容を捉えている。	
			文や文章を読んで、感じたり分かったりしたことを教師や友だちに伝えている。	
		オ	読んで感じたことや分かったことを伝え合い、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。	
			友だちの発表を聞いて、自分の感じたことや分かったことの違いに気付く、それを教師や友だちに伝えている。	
		カ	文章を読んで、感じたことや分かったことを教師や友だちに伝えている。	
		キ	文章を読んで、感じたことや分かったことを教師や友だちに伝えている。	

活動例
・(宮沢賢治作品) ・「セロ弾きのゴーシュ」 ・「注文の多い料理店」 ・「雪渡り」 ・「どんぐりと山猫」 ・「オツベルと家」 ・「よだかの星」 ・「銀河鉄道の夜」 ・「風の又三郎」 ・「虎十公園林」 ・「グスコブドリ」の伝記

読むこと

段階	段階の目標	知識及び技能		判定			
		指導事項	調査項目				
高1 段階	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しむことができるようにする。	ア	(ア) 社会生活に係る人とのやり取りを通して、言葉には、考えたことや思ったことを表す動きがあることに気付くこと。	言葉には思いや考えをまとめたり伝えたりする働きに気付くことができる。			
			(イ) 相手に視線を向けて話したり聞いたりするとともに、間の取り方などに注意して話すこと。	相手に視線を向けて話したり聞いたりできる。 適度な間をとったり、抑揚などをつけたりして話すことができる。			
			(ウ) 漢字と仮名を用いた表記や送り仮名の付け方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点の使い方を意識して打つこと。	漢字と仮名を使って文を書くことができる。 句読点を適切に使って文を書くことができる。			
			(エ) 表現したり理解したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には、性質や役割による語句のまとまりがあることを理解すること。	気持ちや行動、状態を表すために適切な言葉を用いて話したり、文を書いたりすることができる。			
			(オ) 接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。	接続語やつなぎ言葉を会話や文の中に用いることができる。 内容や時系列に応じて段落を分けて文を書くことができる。			
			(カ) 日常よく使われる敬語を理解し使うこと。	相手や場面に応じて敬語や謙譲語などを使うことができる。			
			(キ) 文章の構成や内容の大体を意識しながら音読すること。	文章の意味や内容を捉えながら音読したり、黙読したりできる。			
			(ア) 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など、情報と情報との関係について理解すること。	考えについて、事例や理由を挙げて話したり書いたりすることができる。 話や文の中で中心となる事柄を捉えることができる。			
			イ	(イ) 比較や分類の仕方、辞書や事典の使い方などを理解し使うこと。	情報と情報を比べて、分類することができる。 辞書などを用いて、必要な情報を調べたり情報を得たりできる。		
				(7) 生活に身近なことわざや慣用句などを知り、使うこと。	ことわざや慣用句の意味を捉え、ふさわしい場面で用いることができる。		
		(イ) ア 文字の組み立て方を理解し、形を整えて書くこと。		漢字の仕組みを理解し、読みやすいように字形を整えて書くことができる。			
		(ウ) 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。	必要な情報を得るための本を選んだり、読書によって知識や情報を得ることができる。				
		段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定	
		高2 段階	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。	ア	(ア) 社会生活に係る人とのやり取りを通して、言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。	言葉による依頼や報告、会話ややりとりなどでコミュニケーションを取ることができる。	
					(イ) 話し言葉と書き言葉の違いがあることに気付くこと。	話し言葉と書き言葉の違いに気付くことができる。	
					(ウ) 文や文章の中で漢字と仮名を使い分けて書くこと。	漢字と仮名を使い分けて文を書くことができる。 書いた文を読み直して、読みやすいように漢字や仮名を書き直すことができる。	
					(エ) 表現したり理解したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにすること。	「だから」「しかし」などの言葉を会話や文の中で用いることができる。 「～と考える」「～だろう」などの表現を会話や文の中で使うことができる。	
					(オ) 文と文との接続の関係、話や文章の構成や種類について理解すること。	「始め－中－終わり」、「序論－本論－結論」などの文章の組み立てを理解して書くことができる。 紹介や案内、指示書などの文章の形態の違いを基に書き分けることができる。	
					(カ) 日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。	公的な場面や手紙等において、適切に敬語を用いることができる。	
					(キ) 文章を音読したり、朗読したりすること。	抑揚や間の取り方等を工夫し、内容が伝わるように音読することができる。	
					(ア) 原因と結果など、情報と情報との関係について理解すること。	原因と結果を捉えたり、説明したりできる。	
イ	(イ) 情報と情報との関係付けの仕方を理解し使うこと。				共通項のある情報を分類したりまとめたりして整理することができる。		
	(ア) 親しみやすい古文などの文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。				簡単な古文を読むことができる。		
(イ) 生活の中で使われる慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。	慣用句や故事成語の意味を捉え、会話や文の中で用いることができる。						
ウ	(ウ) ア 用紙全体との関係に注意して、文字の大きさや配列などを決めて書くこと。			用紙の余白やサイズに応じた文字の大きさに書くことができる。 文字間や行間に気を付けて文字などを配列して書くことができる。			
	(ウ) イ 目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書くこと。			読みやすく大きく丁寧な字で文字を書くことができる。 対象た目的、場面に応じた適切な筆記具を用いて文字を書くことができる。			
	(エ) 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くこと。			日常的に本を読んだり、読書に親しんだりすることができる。			

段階	段階の目標	指導事項	思考力、判断力、表現力等	調査項目	判定	活動例
高1 段階	筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめるようにする。	ア	登場人物の行動や会話から心情を読み取っている。			・「読んで調べて見つけよう」 ・物語文の読み取り ・調理実習(レシピを読む) ・工作や制作(キットや道具の扱い方の説明書を読む)
				登場人物の心情がわかる文を見付けている。		
		イ	段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。	段落ごとに文章の内容を捉えている。		
				関係する段落について読み取っている。		
		ウ	登場人物の心情や情景について、場面と結び付けて具体的に想像すること。	場面ごとの登場人物の心情を読み取っている。		
				心情や情景を読み取ったり想像したりしている。		
		エ	目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。	順番を表す言葉を手掛かりに、文章を要約している。		
				考えや理由を表す言葉を手掛かりに、文章を要約している。		
				中心となる語を見付けて、レシピや説明書等の内容を捉えている。		
		オ	文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。	自分の経験と結び付けて感想を持っている。		
				疑問点やさらに知りたいことを見付けたり質問したりしている。		
				感想のもとになる文に印を付けながら読んでいる。		

段階	段階の目標	指導事項	思考力、判断力、表現力等	調査項目	判定	活動例
高2 段階	筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げることができるようにする。	ア	登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。	場面や会話、行動などの描写に着目し、登場人物の心情を読み取っている。		・物語文の読み取り ・説明文の読み取り ・要旨を捉える ・読書感想文 ・調べ学習(学校図書館の利用)
		イ	事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。	事実と意見、感想などを読み取っている。		
				文章の要旨を捉えている。(大体の内容を捉えている)		
		ウ	人物像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。	叙述や描写から、登場人物の人物像を想像している。		
				優れた叙述や印象に残る叙述に着目しながら読んでいる。		
		エ	目的を意識して、文章と図表などを結び付けるなどして、必要な情報を見付けること。	目的に応じた本や資料を選んでいる。		
				選んだ資料から必要な情報を見つけたり、抜き出したりしている。		
				図表や写真と文章とを照らし合わせて情報を読み取っている。		
		オ	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。	文章を読んだ感想や自分の考えを伝えている。		
				感想や考えについて理由を添えて伝えている。		